

令和7年度 長野市 全国学力・学習状況調査結果

長野市教育委員会事務局学校教育課

I 調査概要

1 調査内容

(1) 教科に関する調査

令和7年4月17日(木)実施 【小学校】国語、算数、理科 【中学校】国語、数学、理科(CBT)

中学校理科は、IRTを導入

IRT(Item Response Theory:項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。※IRTスコアは500が基準点

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

2 集計対象※教科によって調査人数が異なるため、集計対象は、国語の実施人数を目安として記載

市立小学校6年生 52校 2,644人

市立中学校3年生 23校 2,627人

II 教科・調査別結果の概要

1 教科に関する調査の結果概要

本市及び長野県、全国の正答率(%)

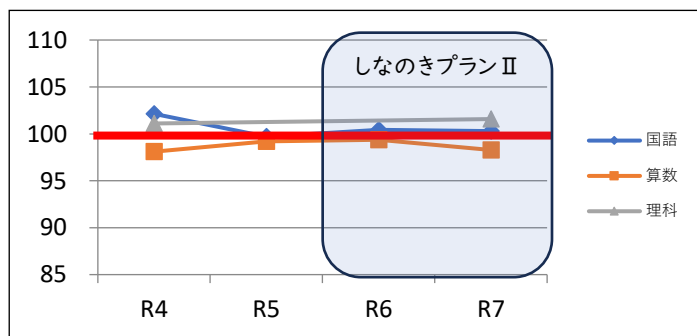
小学校

R7	長野市	長野県	全国
国語	67	66	66.8
算数	57	56	58.0
理科	58	56	57.1

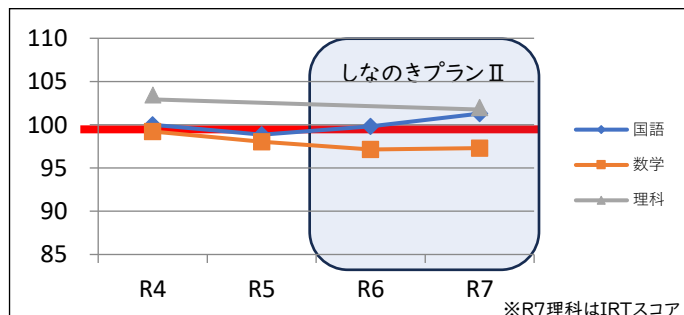
中学校

R7	長野市	長野県	全国
国語	55	55	54.3
数学	47	46	48.3
理科 ※IRTスコア	513	509	503

全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移



全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移



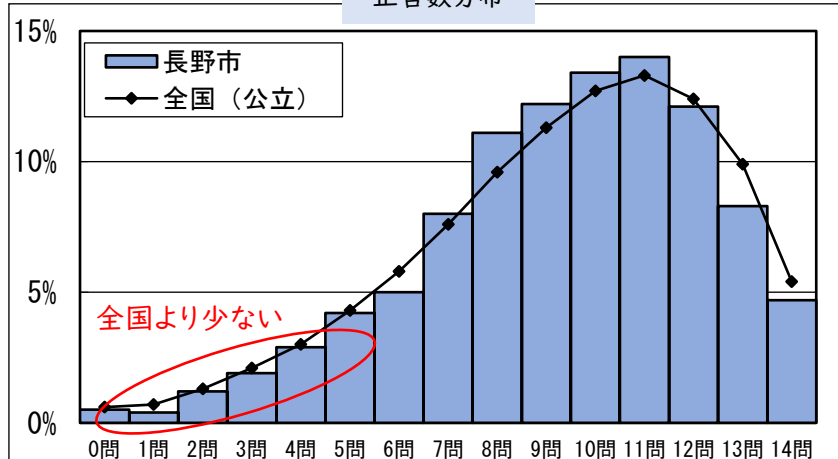
成果○小学校の国語:全国と同程度の正答率を維持
○中学校の国語:全国と同程度の正答率を維持し、上昇傾向
○小・中学校の理科:全国の正答率との比較が上回る傾向
課題●小・中学校の算数・数学:全国の正答率との比較が下回る



(1) 小 学 校

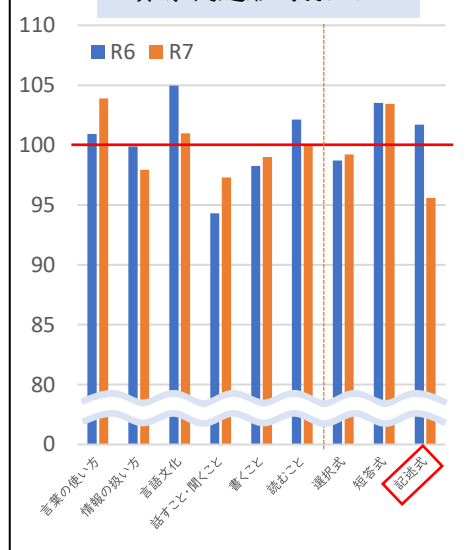
国 語

正答数分布



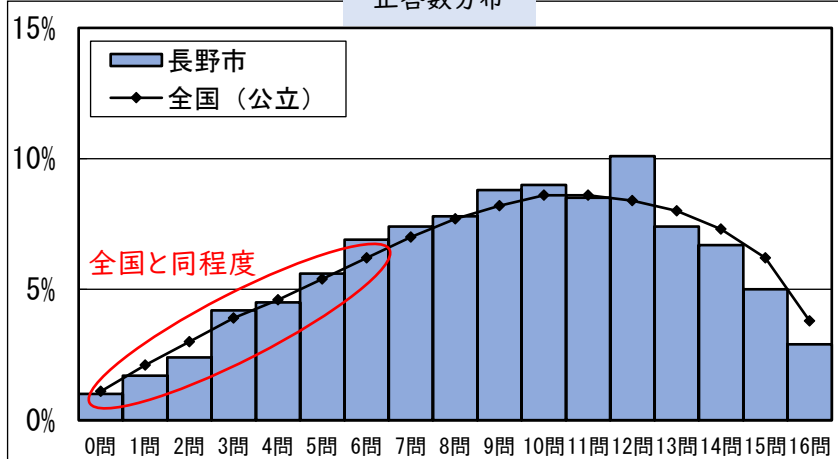
・正答率40% (5問正答) 以下の児童の割合〔長野市:93〕
※全国=100

領域・問題形式別グラフ



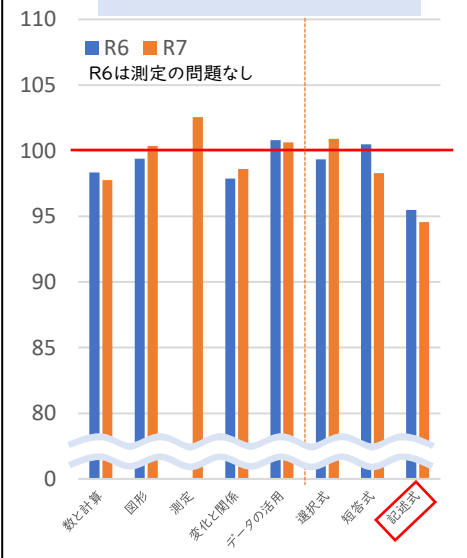
算 数

正答数分布



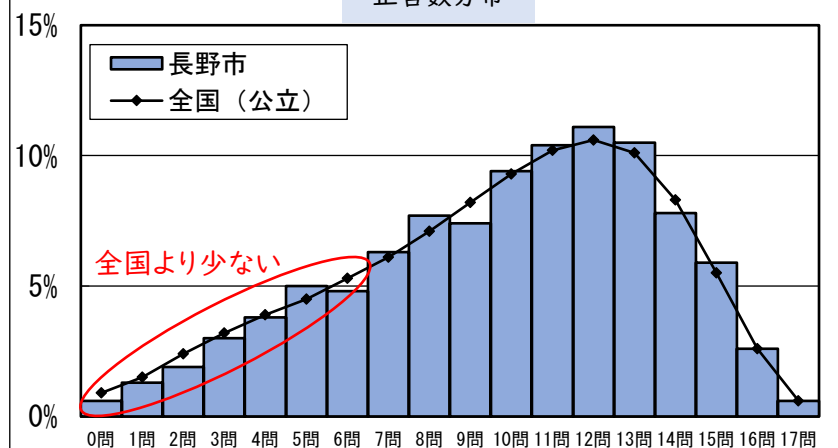
・正答率40% (6問正答) 以下の児童の割合〔長野市:100〕
※全国=100

領域・問題形式別グラフ



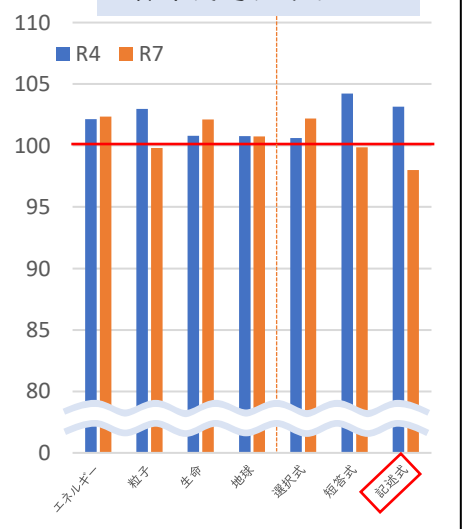
理 科

正答数分布



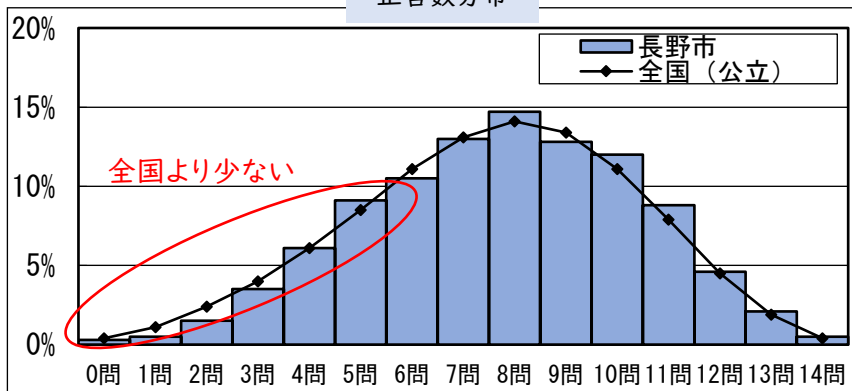
・正答率40% (6問正答) 以下の児童の割合〔長野市:94〕
※全国=100

領域・問題形式別グラフ



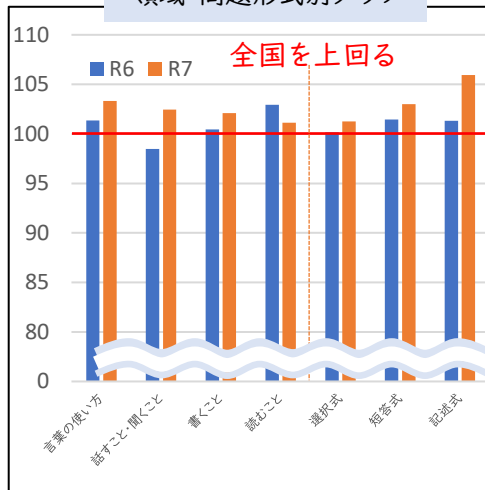
国語

正答数分布



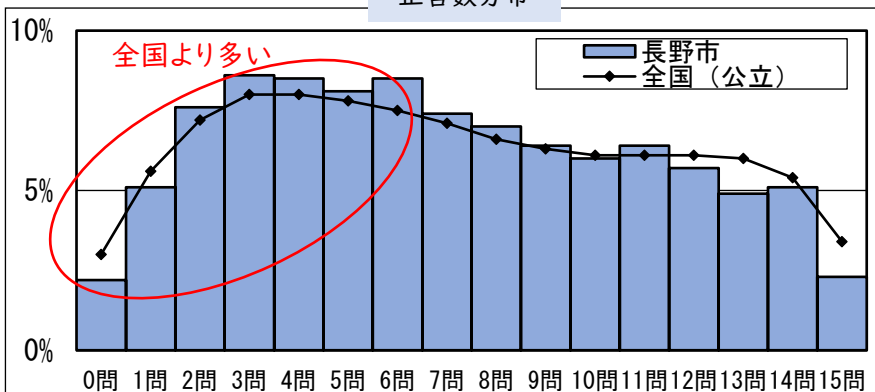
・正答率40% (5問正答) 以下の児童の割合〔長野市:93〕
※全国=100

領域・問題形式別グラフ



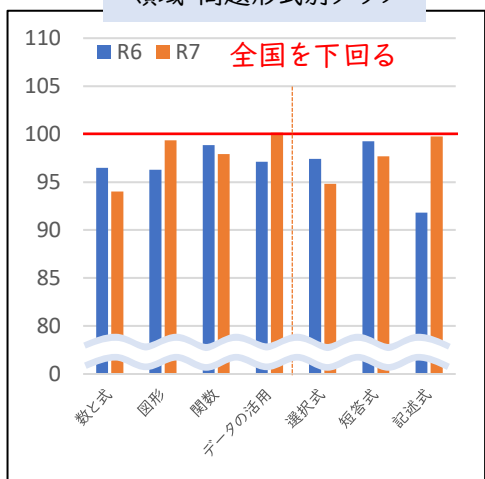
数学

正答数分布



・正答率40% (6問正答) 以下の児童の割合〔長野市:103〕
※全国=100

領域・問題形式別グラフ



理科

I IRTスコア集計値とIRTスコア分布グラフ

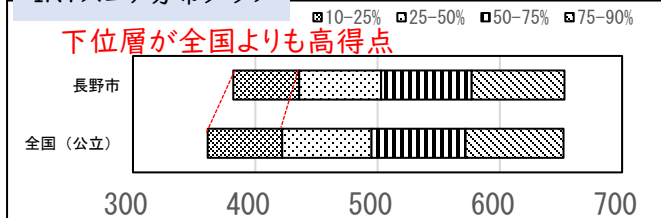
- ・IRTスコアとは、IRTに基づいて、各設問の状況から学力を推定し、500を基準にした得点
- ・パーセンタイル値とは、データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値

IRTスコア集計値

	パーセンタイル値				
	10%	25%	50%	75%	90%
長野市	382	436	503	577	653
全国 (公立)	361	422	495	572	652

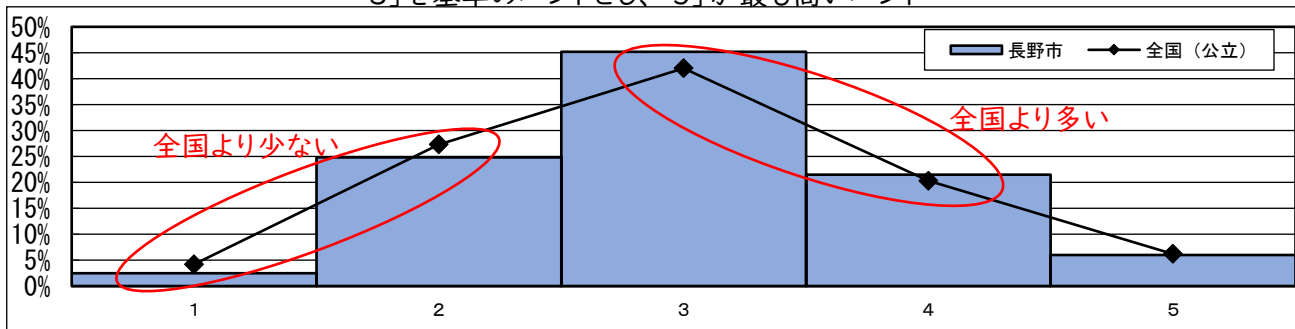
全国より高い

IRTスコア分布グラフ



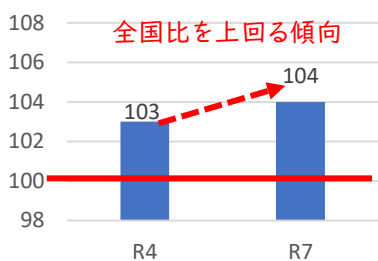
2 IRTバンドの人数割合

- ・IRTバンドとは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの
- ・「3」を基準のバンドとし、「5」が最も高いバンド



本市のよさをPICK UP! ～中学校理科を例にして～

生徒質問調査(62)

理科の授業の内容はよく分かりますか
全国=100

生徒質問調査(69)

理科の授業では、自分の予想をもとに観察
や実験の計画を立てていますか 全国=100

➡観察・実験を位置づけた学習展開を重視し、問いを見出し、解決方法を立案し、結果を分析・解釈する過程を通じて、問題解決の力を育てながら、分かる授業を実践している成果が表れていると考えられます。

中学校問1(6)問題をPICK UP!

水道水、精製水について探究したことを発表しています。

水道水について

- 河川の水などを顕微鏡で観察すると、いろいろな生物がいるので、安全に飲むための工夫をしている。
- 河川の水などを浄水施設でろ過し、塩素を注入したものを水道水として利用している。

精製水について

- 理科の実験で使用する精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりしてつくられ、販売されている。
- 精製水とミネラルウォーターとの違いは何かを現在調べている。

探究を通じて、さらに疑問に感じることに着目して振り返ります。

…水について、…ということが分かり、…についてさらに疑問を感じたので…

Bさん

探究を通じて、はじめの考えから考えが変化したことに着目して振り返ります。

最初は…と思っていましたが、…という考えに変わりました。

Cさん

探究を通じて、身近な生活とのつながりを感ずることに着目して振り返ります。

…ので、身近な生活とのつながりがあることが分かりました。

Dさん

(6)

上の発表を見て、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考にして、あなたの振り返りを書きなさい。

【左記問題の平均正答率】

長野市	全国(公立)
83.3%	79.4%

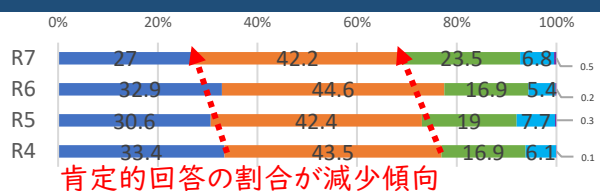
➡①観察や実験を中心とした科学的な探究の過程②多面的・多角的に考察し、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連に着目した振り返りを大切にした授業の成果が表れていると考えられます。



本市の課題をPICK UP! ～中学校数学を例にして～

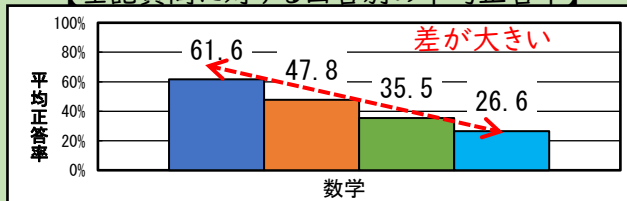
■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない ■無回答

生徒質問調査(54) 数学の授業の内容はよく分かりますか



肯定的回答の割合が減少傾向

【左記質問に対する回答別の平均正答率】



➡ICTを活用して問題場面を視覚的にPICK UPすることで、生徒が個別の課題を明らかにするとともに、個別最適な学びを通して、数学の理解を深めていくことが大切です。

中学校問4・問7をPICK UP!

【左記問題の平均正答率】

長野市	全国(公立)
31.4%	34.7%

4 一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

7 二人は、Aの手元のカードの枚数が4枚、Bの手元のカードの枚数が2枚の場合で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて考えることにしました。

そこで、Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。



このとき、AとBのどちらが勝ちやすいですか。

➡問4では、長野市のおよそ3人に1人が、「17」と誤った回答をしており、全国・長野県より高い割合となっていました。 $x=2$ のときの y の値を求めており、「増加量」についての理解の定着に課題があると考えられます。一方、問7では、実際に樹形図や表等を利用し、求めた確率を根拠にして説明できている生徒の割合が高い傾向にあります。

用語の理解については、生徒が既習事項を振り返り、これまで学習した内容との相違点や共通点を考え、知識・技能を定着させていく指導が大切です。また、図や表から判断したことを説明するような学習においては、友と相談、発表し合う場面を設けるなど、協働的な学びの充実を図っていくことも大切です。

【上記問題の平均正答率】

長野市	全国(公立)
58.8%	55.9%

・表中の値は、全国を100としたときの、長野市の肯定的な回答の割合
・()内の値は昨年度の結果

1 ウェルビーイングについて(児童生徒質問調査より)

質問番号	質問事項	小学校	中学校
(5)	自分には、よいところがあると思いますか	102 (100)	96 (99)
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	99 (99)	98 (99)
(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか	100 (101)	99 (100)
(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100 (100)	100 (101)
(10)	困りごとや不安がる時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	106 (106)	102 (104)
(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	98 (96)	98 (98)
(14)	友達関係に満足していますか	98 (97)	98 (100)
(15)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100 (100)	99 (101)

多くの児童生徒が先生や学校の大人に相談できると感じていることから、学校は安心して過ごせる場となっていると考えられます。今後は、このよさを大切にしつつ、特に中学生には思春期特有の悩みや不安に寄り添い、一人一人の存在や個性を尊重しながら、生徒理解や支援につなげていくことを大切にします。

2 非認知能力について(児童生徒質問調査より)

3観点	質問番号	質問事項	小学校	中学校
みらい	(31)	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	99 (99)	105 (105)
	(32)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	99 (101)	99 (99)
	(33)	これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	97 (102)	97 (99)
	(37)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	104 (103)	97 (98)
	(40)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	93 (94)	99 (99)
きずな	(35)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	97 (99)	98 (97)
	(39)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	99 (98)	100 (100)
	(42)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	98 (101)	92 (96)
じりつ	(16)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	99 (103)	97 (100)
	(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	99 (100)	97 (98)

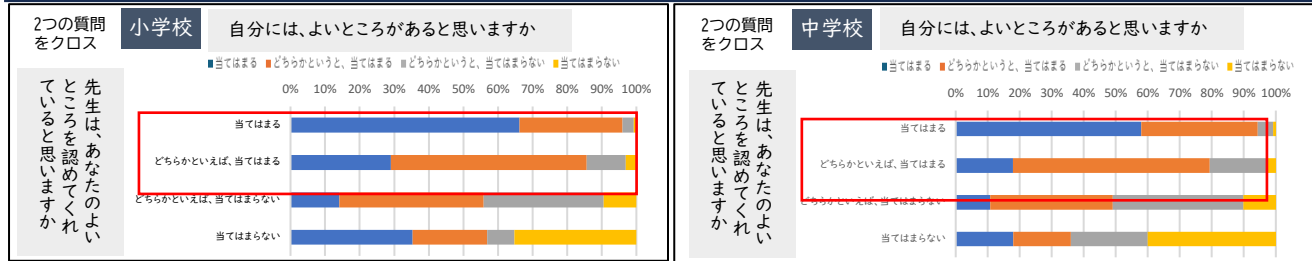
学びを日常生活や次の学習に生かせる児童や資料や文章、話の組み立てを工夫して発表できる生徒が多い傾向です。今後、このよさを広げるとともに、探究的な学習や協働的な学習の場の充実を図っていくことが大切にします。

クロス集計より

しなのきプランⅡでは子どものウェルビーイングの実現を目指しています。

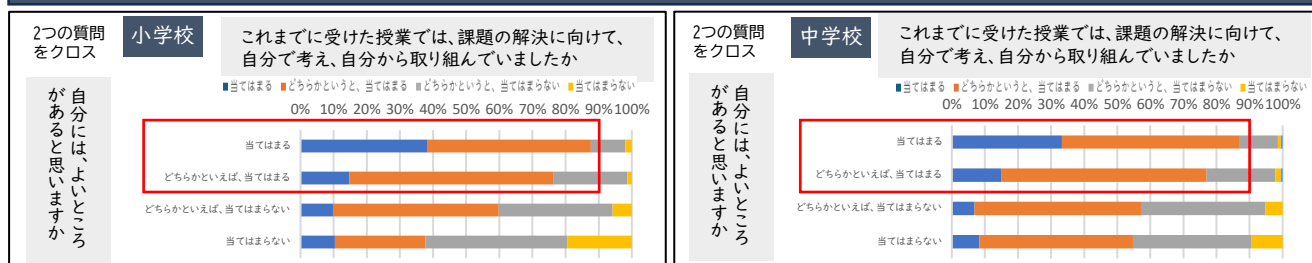


◆ 教師から認められている児童生徒ほど、自己肯定感が高い傾向



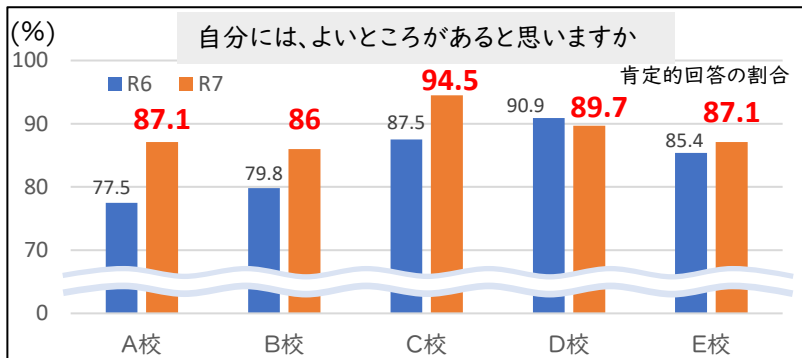
➡教師が、しなのきFinder等を活用して、子どもたちのよさを様々な視点から具体的な姿で捉え、価値づけることを積み重ねていくことで、子どもたちの自己肯定感が高まっていくと考えられます。

◆ 自己肯定感が高い児童生徒ほど、主体的に学んでいる傾向



➡子どもは自分のよさを自覚することで、主体的に課題に向き合い、「自分の考えを試してみよう」「まずは取り組んでみよう」といった前向きな姿勢を育むことにつながっていくと考えられます。

Ⅴ 研究指定校の自己肯定感とその取組



【非認知能力を意識した取組実践例】

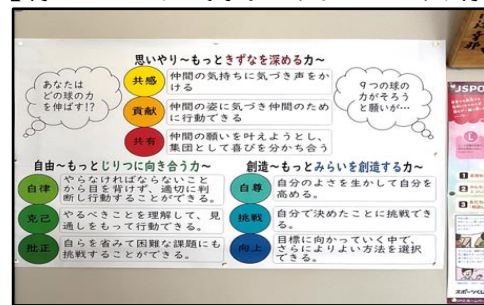
- ☆子どもが思う存分やりたいことに取り組める時間を設定
- ☆子どもが自己選択・自己決定できる授業を実践
- ☆学校教育目標の実現に向けて育みたい力を子どもと共有
- ☆授業や行事で行動指標を意識した活動と振り返りを実施
- ☆教師が子ども一人一人のよさを多角的に見取り、共有

研究指定校では、非認知能力を意識した様々な取組を通して、多くの児童生徒が自分のよさを自覚し、その割合も増加傾向にあります。

【ICTを活用して子どものよさを共有】



【育みたい力を掲示し、子どもと共有】



各学校の正答率に表れてきた結果がどのような“子どもの状態”や“子どもの気持ち”によるものなのかを分析しながら、各学校のよさや強み、課題を洗い出し、学校教育目標の実現に向けて、子どもと教師の対話を通して、個に応じた指導・支援等の取組に繋がるよう支援してまいります。